

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみの家 第1ユニット		
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1		
自己評価作成日	平成29年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivvosyoCd=3370203030-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」に即し、入居者様の今迄の生活を出来るだけ変えず支援することを目的としています。デッキから見える田園風景は、田植えや稲刈等四季の移り変わりを身近に感じることができます。デッキ横の道路からは、犬の散歩をしている近所の方や通学途中の学生がワンちゃん(ココちゃん)や寛いでいる入居者様に気軽に声を掛けて下さいませ。和やかな会話の中には地域の方との親密さが伺えます。また、毎月1回の外出行事や音楽療法などを行い、楽しい時間を過ごしていただいています。毎週金曜日は2匹のワンちゃんの訪問日がありより楽しい時間も提供しています。質の高いサービスを目指し、職員全員で内・外の研修に参加して取り組んでいます。また24時間医師との連携がとれているので安心して生活して頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の優しい言葉かけが入居者にも伝わっており、穏やかに過ごされていることが実感できる。107歳の方にもトイレでの排泄を促す姿勢は、出来る事はなるべく継続してもらおうという、ホーム全体の自立支援の姿勢の表れである。昼食後には自室で糸絵に熱中される方、女子会を楽しむ方もあって、入居者は思い思いの時間を過ごしている。音楽療法は100回を越え、入居者の入れ替わりはあるものの、年々腕が上がっている。クリスマス会での発表は、1年間の生活のライドショーと共にご家族も楽しみにされている。ほほえみ便りや毎月の手書きの手紙も継続されており、ご家族とのつながりを大事にする思いが随所に感じられる。誕生日には毎回違ったケーキが手作りされ、一人ひとりの誕生日を祝っている。職員は仲良く働きやすい職場となっている

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人々に愛し愛されるグループホームを目指し、地域の人々との関係づくりに取り組んでいる。「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」を理念として支援している。クレドを毎朝朝礼時に全員で唱和している。	事務所の目につくところに掲示してある。ユニット毎に月間目標も決めており、理念に添った介護ができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のふれあい祭りに出店したり、地域の奉仕活動としてゴミ拾いに参加している。また、コーラスやバンド演奏者の来訪があり地域の人々と交流をしている。	小学校で行われているふれあい祭りにゲームコーナーを出店し、入居者も出掛けて一緒に楽しんでいる。実習生の受け入れや、中学生の社会見学の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページ更新にて地域の方にグループホームの様子について掲載している。『ほほえみだより』の新聞も1年に4回作成し、外部の方にも見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。地域包括支援センターの方や他のGHの方・民生委員・入居者様・ご家族様等が参加され、活動内容・入居者様の状況等について報告し、意見や要望を頂いている。	家族会と併催したり、家族に参加できる日程を聞いたり、なるべく多くの家族に現状を知ってもらえるよう努めている。また参加者から得られた情報は日々の生活に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて包括支援センターの方が毎回参加して下さり、意見交換を行ってアドバイスをいただいている。	質問事項があれば、担当者に電話で確認したり、案内された研修にはできるだけ参加するよう努めている。包括支援センターとは頻りに情報交換を行い、連携を密に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内・院外研修を行い、職員全員が研修の報告をして身体拘束のないケアに取り組むを行っており、職員が常に意識できるようにしている。居室で転倒の危険がある入居者様には、カンファレンスを行いベッドをやめて床にマットレスと布団を敷き休んで頂けるようにしている。	現在拘束事例はない。言葉かけにはいつも注意をはらっており、特に語尾に気を付けている。言葉や態度による拘束にならないよう、随時職員にも指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり勉強会などを行い、人生の先輩として尊敬し言葉による虐待等もないようにし、入居者様に安心して生活していただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、包括支援センターの方にその都度お聞きし、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様が理解・納得できるように十分時間を取り説明をしている。契約後も不安や疑問点などがないかお尋ねするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族様に積極的に意見を求め、また、来訪時にはなるべくお話をし意見・要望の確認に努めている。年に1回アンケートを行い意見を反映している。	面会時に要望を確認するよう努めている。また、言いやすい雰囲気をつくるために、家族会や運営推進会議への参加をお願いしたり、ほほえみ便りや毎月の手書きの手紙などで、入居者の日々の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや勉強会・半年に1回行う人事考課などを通じて意見や提案を聞く機会を作り、運営に反映できるように努めている。	月に1回のミーティング時だけでなく、日常の中でも随時話を聞くように努めている。職員からもアンケートを取ったり、人事考課を行うなど、管理者は職員の意見を聞く機会を確保している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一回人事考課を行い、職員一人一人の努力・目標を評価し給与や賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修は毎月実施している。院外研修は1年に1回は参加するように指導している。外部研修の情報を提示し参加希望者には支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修や庄地区小地域ケア会議ケアマネジャー交流会に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の情報共有を行い、入居前の生活環境・日課を大切にすることで入居者様に安心して生活して頂けるよう努めると共に、日々の関わりの中で小さな変化にも気づけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問させていただき、ご家族様の希望・不安や困っていること等お話しを聞く時間を十分にとり、お気持ちを受け止め、職員間で共有するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、状態・状況等のお話をお聞きし、何を必要としているのか見極め、他のサービスの提案もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体の生活の中、共に活動する時間を大切に、共に笑い、入居者様の話に耳を傾け共感し、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の近況状況や健康状態の変化報告等、来所時にお話をさせて頂いている。家族会(お花見会・クリスマス会)等には積極的に参加を呼びかけ、共に楽しむ場を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の今迄の生活を維持することを大切に考え、近所に住んでいた方の面会等気軽に足を運んでいただけるような温かい雰囲気グループホーム作りに努めている。	入居後も友人が迎えに来てくれて、長年趣味として楽しんできた卓球を続ける方がおられる。家族と墓参りや法事に行かれたり、盆や正月には外泊して家族と共に過ごされる方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分から輪の中に入っていきることが難しい入居者様には、職員が間に入り話題を提供したりレクリエーションにお誘いすることで仲間意識が生まれ和気あいあいとした雰囲気作りが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談などがあれば情報を提供し、家族との関わりを持つようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り入居者の何気ない様子や会話の中からお本人の思いや希望をくみ取り、又ご家族様ともお話をしニーズの把握に努めている。	希望や意向は出にくいですが、献立の希望が出た折には外食や手作りメニューで対応している。糸絵や水彩画、卓球など、それぞれのできる事を見つけ、継続を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人様・ご家族様よりお話を聞きフェイスシートを作成し、職員全員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活状況(家事・生活動作・趣味活動等)を個人記録に細かく記入を行い把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中でご家族の要望や一人ひとりのケアについて職員全員(看護師も含め)で情報交換を行い、ケアの統一が図れるようにしている。	毎月全員のカンファレンスを行っている。本人や家族からも面会時に意見を聞いている。毎日のサービス実施事項記入用紙にそれぞれのプランを貼付しており、プランに沿った介護が行えるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での小さな気づきや、ご本人様の表情や言葉など細かく個人記録に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅時に飼われていた愛犬と一緒に入居された方の犬の散歩を、朝・夕行っている。また、ご本人が希望される地域の行事にお連れすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加したり、ボランティア(バンド演奏・ハンドマッサージ)をお願いしたりしている。朝・夕の散歩の際には近所の方と、挨拶だけでなくおしゃべりも楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望するかかりつけの病院に受診をして頂いている。月4回の訪問看護がある。内容は医療ノートに記入し職員が情報を共有している。	協力病院への受診には職員が付き添っている。リハビリに通われる方もおられる。他科受診や他病院への受診は家族をお願いしているが、日頃の様子は手紙に書いて、先生へ渡してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション(よつ葉)の方が月4回見て下さっています。また職場内に看護師がおり、状況変化や対応について気軽に相談でき、連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院との情報共有を行い連携をとっている。お見舞いに行き状態把握を行っている。退院前には安心して生活できるよう準備・対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応についての方針をお渡しし、説明を行っている。事業所の出来ること出来ないこととお話し救急対応等、主治医との話し合いの場を設けている。	医師、看護師の協力の下、看取りを行っており、入居者、家族に、ここで最期まで過ごせるとの安心感をもたらせている。たとえ夜中の訃報であっても、職員揃ってお見送りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを作成している。ミーティングで見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、年2回避難訓練を行っている。毎年いろんなところからの出火を想定して訓練を行っている。	火災訓練は昼夜想定で年2回実施している。施設傍には水路があり、水害想定で、隣接施設への避難訓練も行っている。近隣住民にも災害時の協力をお願いし、了解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の生活歴を尊重し、レクリエーションや会話の中から主張を見出しその方に即した対応や言葉かけを行っている。そして日頃から職員同士で注意や反省を行うようにしている。	トイレの外にもカーテンをつけ、使用中の札も作るなどして、声掛けも含め排泄時には特に気を付けている。申し送りは入居者から見えない物陰で行うようにしてプライバシー確保に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定しやすい声かけ、希望を言いやすいような環境を作るように配慮している。その人にあった声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の希望や体調に合わせ、出来るだけその人らしい生活が出来るよう支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗顔・整髪、男性の方は髭剃りをして頂き、着替えの時はどの服が良いか選んで頂いている。2ヶ月に1回移動美容車がきて、散髪や毛染め等、入居者様と相談しながら理美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に焼きそばや手作りのおやつを作ったりしている。食後には後片付け、食器拭きやお盆拭きの手伝いをして頂いている。	レトルト食品が届くが、1品と汁物は手作りしている。職員も一緒に食事をする事で、食事内容に関して、業者に要望を出すこともできる。入居者の希望で手作りしたり、月に1回は外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物の種類を増やし、好きな物を飲んでいただけのようにしている。食べにくいおかずはキザミやミキサーなどに形態を変えてお出ししている。嚥下障害がある方には、ミキサー食や水分にとろみをつけ誤嚥予防をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけ・介助を行っている。義歯のない方も、必ず、うがいをしている。口腔ケアに拒否がある方はしっかりお茶を飲んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄して頂けるようタイミングを計り、プライドを傷付けないように声かけ誘導を行い、気持ちよく排泄が出来るように努めている。	排泄チェック表により、それぞれの排泄パターンをつかみ、声掛けによってトイレでの排泄につなげている。夜間には自室でポータブルトイレを使用する方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動を行ったり、牛乳やセンナ茶緑茶等の水分補給を行い便秘の解消を行っている。入居者様一人ひとりの排便チェック表にて把握できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴支援を行っている。入浴前にご本人様に声かけを行い希望の時間帯をお聞きし、出来るだけ希望に沿えるようにしている。	1対1でゆったり過ごせる時間であり、お風呂ならではの話に花の咲くことも多い。全身状態をチェックできる機会であり、気を付けている。一人でゆっくり入浴する事を希望する方もおられ、入浴中の声掛けには留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操をしたり散歩に出かけたり、デッキにお誘いして犬と遊んだりと日中の活動量を増やし夜間安眠して頂けるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの処方箋やお薬手帳があるのでいつでも確認することができるようにしている。入居者様の症状に変化があれば、医師に服薬の相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・掃除・洗濯たたみ・水遣りなど、その方にあった家庭的な活動を支援している。ご本人様の得意とすることや趣味(小物作り・糸絵・卓球)等、活躍できる場を見つけ日々楽しく過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は散歩や外気浴を行っている。面会時や手紙などでご家族様と連絡を取り、外出する楽しみを支援している。	家族と共にバラ園でのお花見会を行った。初詣や近隣の名所へ出掛けたり、外食時にドライブしたりする事も多い。友人の誘いで外食したり、コンサートへ出掛けたりする方、家族とともに趣味の材料の買い物に出掛ける方もおられる。	計画を立てたきっちりとした外出はできていると思うが、天候やその日の入居者の状況に応じた柔軟な外出ができるよう、また個別支援が行えるよう、今後さらなるステップアップを図っていただければと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金をお預かりすることはしておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、ご本人の希望があれば自由に電話ができるようにしている。お友達に手紙や葉書(年賀状を含む)を書かれた際には、投函まで支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には入居者様の手作りの作品や、毎月行っているアクティビティの写真と季節の花を飾っている。ホールの照明は太陽光を遮るロールカーテンを使用し優しい光に包まれている。	天窓から日差しが取り入れられ、リビングは落ち着いた空間となっている。ウッドデッキに続く掃き出し窓は大きく明るい。ピアノやソファが寛ぎをもたらしている。壁面には楽しくレイアウトされた写真が飾られ、入居者の糸絵の作品が多数並んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設周辺の自然環境が豊かで、デッキのベンチに座りおしゃべりをしながら四季を感じられる環境となっている。ホール内のソファで気の合う方同士でお話をされている姿もよく見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた家具や食器などを持ち込んで頂き、その方らしい生活が出来るよう配慮している。	ベッドとタンスは備え付けとなっているが、使い慣れた道具や家具が持ち込まれ、家族写真や色々な作品も掲示されていて、一人ひとり雰囲気の違いが部屋が出来上がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が居室やトイレ・風呂などがわかりやすいように表札や貼紙をして、過干渉にならないよう見守りだけで活動して頂くようにしている。状況に応じてベッドの配置やタンスの位置などを変える工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみの家 第2ユニット		
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1		
自己評価作成日	平成29年9月 24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203030-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景が広がる自然豊かな環境にあり、いつでもデッキに出て外気浴や散歩ができるようにしています。また外出事を企画してドライブや外食にも出掛けています。理念をもとに、入居者様の意思を尊重し、その方一人ひとりのペースに合わせ、尊厳のある暮らしが出来るように支援しています。音楽療法やアニマルセラピーを行い、皆さんと一緒に楽しい時間を過ごしたり、動物に癒される時間も提供しています。職員は院内、院外研修会等に積極的に参加しています。また1年に2回、職員の人事考課面接を実施し、個々に目標を設定し質のよいサービスが提供できるように、向上心を持って取り組んでいます。隣にえんさこ医院があり、いつでも24時間対応可能です。日常の変化に素早く対応できるので、入居者様、ご家族様も安心して生活が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に、職員が理念を唱和している。年2回接遇ディスカッションを行い、理念がケアに反映されているかどうか振り返りを行っている。また月間目標を決め同じ理念を持って取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ出しや散歩など、道行く人に気軽に挨拶をし、日常的な関わりを大切にしている。また庄ふれあい祭りなど地域の方との交流を行っている。大学や専門学校の実習生の受け入れをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「ほほえみの家だより」の新聞を発行したり、ホームページ上にて生活の様子を公開している。入居以外のことについても、いつでも気軽に相談してもらえるような対応を心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、民生委員、ご家族様、入居者様、他GH、管理者等が出席し2ヶ月に1回実施。活動内容の報告を行うとともに、自然な会話の中からご家族の意見を引き出せるような談話の時間を作り、サービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から事業運営などについて、相談し助言を受けている。運営推進会議には、地域包括支援センターから毎回の出席を頂き、アドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのハンドブックをもとに研修を行い、意識を高め日々の実践に取り組んでいる。夜間、施錠はしているが、それ以外の時間帯は開放している。職員の見守りを強化し、自由な暮らしが出来るように支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内研修で虐待防止の勉強会を行った。虐待についての知識を職員間で共有し、心理的、身体的虐待の防止に努めている。高齢者の尊厳と人権を思い、日々業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度について、研修に参加し知識向上に努めている。学びが活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはケアに関する考え方や取り組みを丁寧に説明している。解約や改定があった場合については、個別にご本人様、ご家族様に説明を行い納得が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で話しやすい雰囲気作りを心掛け、意見、不満、苦情を話す事が出来る関係作りを努めている。運営推進会議や年に1回、家族会の際にアンケート調査を行い、ご家族様よりご意見を頂き運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個人面談の中で職員の意見や提案を聞き入れている。また日頃よりコミュニケーションを図り、お互いが何でも言いやすい関係を築くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎朝の申し送りやカンファレンスに参加している。現場の状況や変化なども把握している。、職員一人ひとりの持ち味が発揮できるように努めている。人事考課を導入、個人目標を設定し自己啓発を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は必ず1年に1回、全職員が受講している。研修レポートと資料を一緒に提出してもらい、スタッフ全員に回覧している。院内研修は一人でも多くの職員が受講できるように勤務人数に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修や市内の事業者連絡協議会やGH協会での研修に参加し情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。庄地区小地域会議ケアマネジャー交流会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とは事前面談をして生活暦を把握し、入居後もご自宅と変わらない生活を送って頂けるように努めている。困っていることや不安なことに寄り添い、小さな事でも真剣にお聞きし、安心して頂けるように、コミュニケーションを密にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話に、しっかり耳を傾け、その気持ちを受け止めながら、一つ一つ解決していけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所で出来ることは可能な限り、対応させて頂いている。また必要に応じて他のサービス機関につなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の力を借りながら、お互い助け合える人間関係作りに努めている。全職員は入居者様は人生の大先輩であるという考えを持ち、常に感謝の気持ちを忘れず、「ありがとう」の感謝の言葉を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ゆっくりお話ができるように、居室へご案内しお茶をお出しする等の配慮をしている。また入居者様の日常生活や健康状態の報告をご家族様へお伝えしたり、月に1回、手紙を送り、ご家族様との情報共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも、ご近所やご家族、親戚等に気軽に遊びに来ていただける雰囲気作りを心掛けている。ご家族様との連携を図りながら法事、墓参り、お盆、お正月の外出が出来るように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カルタ取り、ホール遊び、パズル、体操等、みんなで楽しく過ごす時間を、レク活動に取り入れている。コミュニケーションが困難な方にも、職員が間に入り、他者との交流が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後(ターミナル後)も、気軽に訪ねて頂いたり、相談を受けるなどの体制作り に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない言葉を大切に思いや希望、意向を把握し職員間で共有し、日々のケアに活かしている。意思疎通の困難な方は表情や行動、言葉の端々から気持ちを汲み取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや生活暦など入居に至るまでの状況を把握し、日々の関わりの中で、プライバシーに配慮しつつ、さらに具体的な情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや朝・夕の申し送り等で一人ひとりの生活の様子や過ごし方、動作から感じ取り、ご本人様の全体像を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行っている。ご本人、ご家族様の意向を確認し職員が日々の生活で知れたことをもとに意見交換をしながら、意見や要望を踏まえて、ケアプランの見直しや変更をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に入居者様の身体状況や観察、気づき等を記録している。また重要申し送りノートや医療ノートを活用し、職員間での情報を共有している。ケアプランの評価や総合評価も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時は、必要に応じて、往診・受診を行う。またご家族様や環境の変化に弱い認知症高齢者の状況を考慮し、入院せず、訪問看護ステーションとの連携を密にして柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの職員、民生委員の方の活発な意見により地域の情報交換が出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医で行っている。ご本人様、ご家族様の希望があればその病院へも受診している。訪問歯科も対応できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日の入居者様の健康状況経過を記録し看護師に毎日、報告している。また一週間に一度、訪問看護師による健康チェックを行っている。相談や助言も、しやすい環境である。24時間対応で早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、医療機関に情報提供書を渡し情報を伝える。入院中は、ご家族様や医療機関との連絡をとり情報交換をしながら退院時の支援を行っている。またお見舞いをしてご本人様の状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時に医療や看取りの説明をしている。終末期についての意思確認書を作成している。意向があれば、院長、看護師、職員との連携を密にしながら、安心した最期が迎えられるように取り組んでいる。その都度、家族に連絡をして確認をしながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成して周知徹底している。ミーティングなどで見直しを行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回に防災訓練を行っている。避難経路や自動通報装置の使い方などの再確認をしている。災害時の避難食の備蓄の点検や近隣住民への協力に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内情報の流出には十分注意している。一人ひとりの生活暦や性格を把握し、入居者様を尊重した声掛けや対応をするように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に決めてもらえるように働きかけをしている。一人ひとりの状態に合わせて答えやすい方法を心掛けている。また職員が押しつけることのないように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その方に合わせた対応をし、ご本人様の要望や希望はないかをお尋ねして、個人にあった時間が過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットは定期的に移動美容車の訪問があったり、馴染みの美容室に行かれおしゃれを楽しまれている。服装や髪を整えたり、口、目脂等に気をつけ身だしなみの支援を行っている。自分で出来るところは継続してできるよう声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の状況や入居者様の状態に合わせて、簡単な準備と後片付けのお手伝いをして頂いている。食事は職員と一緒に同じテーブルで食べている。楽しく食事が出来るように雰囲気作りも大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病等に応じて食事量・水分量の調整を行い摂取量を把握して記録している。個々に食事の形態を工夫しながらその方に食べやすい物を提供している。また食べるペースの遅い方も、ゆっくりと食事が摂れるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っている。自分でできない方は、一人ひとりの状況に応じて、声かけや介助を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンに合わせ、定期的にトイレ誘導をして、トイレで気持ちよく排泄して頂けるよう支援している。紙パンツやパットも個々に応じたものを使用して頂き、見直しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全入居者様の排便を記録し、排便チェック表から毎日の便の状態を把握している。便秘気味の方には、水分補給や食べ物に気をつけたり、適度に身体を動かす、体操や、散歩などの働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるようにしている。入浴剤を入れたり、湯温もご希望に添えるように配慮して入浴を楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日のリズムが保てるように、個々に合わせ、ソファや居室で休んで頂いている。また安眠を促す為に、日中の過ごし方の工夫や入眠時の寂しさの解消と安心感が得られるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりにお薬手帳がある。また薬の効能、副作用等の説明書をファイルに保管して常に確認できるようにしている。薬の変更があった場合は、医療ノートの申し送りなどで、変化を確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみ、新聞折り、縫い物、草取り、花の水やり、ゴミ捨て等、その方の得意、不得意なことを見極め、自然に役割が持てるよう努めている。その方の意見を大切に生活の中に取り入れ、その人らしきさが出るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換が出来るように散歩や外気浴にお誘いしている。定期的にお出かけプランを入居者様と一緒に計画している。行きたいところへ行ったり、外食やお弁当を持ってお花見会を開催している。またご家族様と一緒に外出され、食事をして帰られることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持って頂かないようにしている。必要な時には、ご家族と連絡を取り合い、対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出す為の支援や、日頃の出来事を紙に書き留めて、面会時には、ご家族様にお話できるように手助けをしている。また電話は、ご希望があれば、いつでもかけて頂けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画、絵画、季節の生花を飾るなど、生活感を感じて頂けるように気配りをしている。入居者様に馴染みのあるものを生活の中に取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや正面玄関にソファを設置している。デッキには机や椅子を置いて、いつでも、好きな時間に仲良しのお友達とお話出来るように、環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物を、持って来て頂いている。家族の写真を貼ったり、アルバムなど置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室やトイレを迷わないように、表札や貼り紙をかけている。ホール、トイレ、風呂場の手すりは身体状況に合わせて手すりを設置している。正面玄関や西裏口をスロープにし、入居者様が移動しやすいように、安全に配慮している。		